

# 「二つの勝軍地蔵」

36

市指定有形民俗文化財

①昭和53年10月13日指定

②昭和56年3月9日指定



問合せ  
北川辺教育事務所  
(☎0280・62・1710)



所在地 ①内野集会所付近(麦倉)  
②藤畑集会所付近(小野袋)

勝軍地蔵は悪業煩惱の軍に勝つ地蔵ということで、鎌倉時代後期に起こった信仰ですが、その後、戦勝をもたらす地蔵として中世武士の信仰を得ました。

一方、民間では防火神としてあがめられ、愛宕権現として祭られました。この石仏に神仏混交の歴史の流れをうかがうことができます。一般に江戸時代造立の勝軍地蔵は甲冑をつけ、右手に錫杖、左手に宝珠を持っています。

加須市内にこの石仏例は少なく、文化財に指定されている北川辺地域の次の二体を紹介します。

一体は麦倉内野、薬師堂境内にある①線刻勝軍地蔵です。銘に、「維時文久三癸亥(1863)年仲

春吉、武州埼玉郡麦倉新田、一金百疋、大島中」とあり、さらに建立者の連名が刻まれています。江戸時代末期の造立で彫技はそれほど優れてはいませんが、線刻の勝軍地蔵は北川辺にもこれ一体のみで、大変貴重です。なお、幕末の一疋は錢二十五文に相当しました。

もう一体は小野袋藤畑、八幡神社の②勝軍地蔵です。地蔵の右側に「將軍石尊村中安全祈」、左側に元禄十二(1699)年造立と刻まれています。童形で慈悲深い表情に彫られていて、騎乗する馬も何となく漫画風で、見る人の心を癒やしてくれます。お隣の群馬県板倉町にも、同じ元禄12年の勝軍地蔵があり、ともに300年経ったとは思えない良好な保存状態で、いかに地域の人たちから大切にされてきたかが分かります。



線刻勝軍地蔵



勝軍地蔵

紹介者 ② 渡辺 章さん(向古河)